

学術団体名：東北ジャーナル刊行会

学術刊行物の名称：THE TOHOKU JOURNAL OF EXPERIMENTAL MEDICINE

事業期間：平成30（2018）年度～令和4（2022）年度

## 1 取組の概要

### ・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

The Tohoku Journal of Experimental Medicine (TJEM) は、1920年の創刊以来、重要な医学研究成果を世界に発信し続けており、我が国の代表的な総合医学雑誌として国際的に評価されている。創刊当時より海外への情報発信を目的としており、創刊号の表紙下部には国際情報発信の意図が明記されている(図1)。2004年にオープンアクセス化を達成し、全掲載論文が自由に入手可能となっている。

多くの学会誌と異なり、TJEMは医学関連の全領域と災害科学を対象とする英文総合医学雑誌であり、研究の流行にとらわれることなく、長く引用される上質な論文を掲載している。そこで、2020年に創刊100周年を迎えるTJEMが国際競争力をさらに強化する。

### ・応募時に設定した取組の目標・評価指標

- 1) 編集体制の強化。次の100年を念頭に、若い編集委員を加えるなど、新たな編集体制を構築する。
  - 2) 創刊100周年記念総説シリーズの掲載。
  - 3) 著者支援事業（オンライン教材の提供など）
  - 4) プロモーション活動の強化（Nature 誌での広告掲載）。
- 令和4年度（最終年度）、2022年のインパクトファクター(IF)など種々指標の向上を目指す。

## 2 目標の達成状況

### ・現在までの目標の達成状況

表1 TJEMの評価指数（Web of Scienceより）

	2017年	2018年	2019年	2020年
インパクトファクター (IF)	1.423	1.584	1.441	1.000*
Cited half-life 論文の寿命(年)	8.9	9.2	9.5	-
Total Cites 総被引用数	2,847	2,902	2,971	-

Web of Science: 世界的オンライン学術データベース

(\*9月末の暫定値)

の29万件と顕著に増加した。また、世界中から新型コロナウイルス感染症関連論文が投稿されており、ウイルスと闘う世界の研究者を支援している。さらに、Web of Scienceの種々指標にも改善が見られた(表1)。2018年のIFは1.584に上昇し、これまでの最高値を記録した。本事業の成果を直接反映する2020年の暫定IFは既に1.000に達し、今後も増加すると予想され、最高値を更新する可能性がある。Cited half-life(論文が引用される期間を反映)と総被引用数も年々増加しており、本事業の成果と思われる。特に、2019年のCited half-lifeは9.5年とトップクラスにランクされる(医学一般領域の対象165誌中30位)。

### ・今後の計画

的確、公平かつ迅速な論文審査こそ最大の著者サービスであると考えている(平成30年度以降、平均査読日数15日)。よって、本事業により構築した編集体制の下で編集業務を継続すると共に、広報活動を推進する。TJEM誌が国際競争力を強化し、さらに発展していくために、研究の流行にとらわれることなく、多様な分野の質の高い論文を掲載していく。

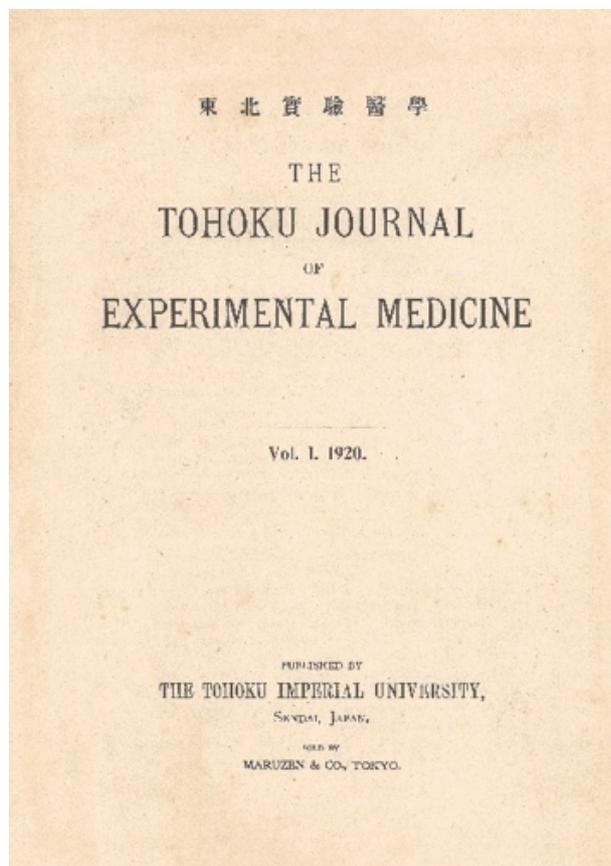


図1: 1920年 創刊号表紙

上記の取組を堅実に実行している。毎年、600編を超える論文が投稿され、それらの約80%は海外からであり、これほど国際的に支持されている国内雑誌は他に例がない。一方、投稿論文の採択率は16%程度で推移し、新編集体制による厳格な論文審査が実施されている。論文のダウンロード数も平成30年度の18万件から令和元年度

The 100<sup>th</sup> Anniversary (1920-2020) of  
Tohoku J. Exp. Med.